

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270300599		
法人名	有限会社 源氏		
事業所名	グループホーム 源氏庵		
所在地	静岡県伊豆の国市四日町346-2		
自己評価作成日	平成31年1月24日	評価結果市町村受理日	平成31年3月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_2018_022_kami=true&JigyosyoCd=2270300599-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成31年2月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自然に自分らしく共に生きよう源氏庵」という理念の下に、この地域で暮らされてきた利用者が送られてきた生活を極力維持できるようサポートしていくことに力を入れている。スタッフに対しても働きやすい環境を提供するため、役員が率先してコミュニケーションをとるようにし、結果として勤続10年近いスタッフが長く、開所当時からスタッフも所属している。スタッフが安定していることで、利用者本人、家族に対するの安心感が繋がると考えている。また、施設での看取りを積極的に行っており、可能な限り本人、家族の希望に沿えるように支援をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家族の大黒柱である代表者が、護られるべき利用者が快適な生活を送るために、日曜大工に勤しんでいることが見てとれる事業所です。敷地入口には自転車の車輪で作った風力発電のオブジェが目を楽しませ、風が強い日には象徴のように明かりが点灯します。玄関脇にもランドセルやサッカーボールが何気なく置かれていてごく普通の家庭の風情が感じられ、全体に穏やかな空気が流れています。将棋盤は柵となり、ねじれた木材は存在感満載の柱に、ストープには欄間かのようなお洒落なパテーションで囲み、危険防止に取り付けたというよりインテリアの域に達しています。その為、利用者の表情にも大事にされている安堵が滲んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、パンフレットに記載し、施設内にもフロアーの目に付く場所に掲げている。又、その理念を実践すべく日頃より介護現場において職員に指導をしている。	理念はフロアに掲示のうえ、パンフレットにも記載していますが、唱和や小テスト、目標設定といった浸透への取り組みはありません。10年以上の勤務者もいて、管理者が「長く働くうちに覚えてくれている」という認識をもっています。	浸透しているため、現状困ることもないかも知れませんが、年に1度程度は職員間で理念の実践について振り返る機会をもつと、なお良いと思います。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の文化祭への出展や、ボランティアの受け入れ等、地域との関わりを積極的に行っている。また、直接的な関わりではないが、日課である散歩により、どういった方が利用しているのか、常に近隣の目に映るよう心がけている。	管理者の同級生や近隣農家から市場に出せなかった野菜や果物が持ち込まれ、また敬老会や地域の祭典の参加に声がかかったり、散歩で立ち話をしたりの、隣近所の付き合いが続いています。ハーモニカのボランティアが訪れることもあります。	四日町地区文化祭参加が断念されたり、最近では職業体験の生徒も途絶えたりと、地域との関係の中で終息してしまった、もしくは休止しているものがいくつかありますので、再開を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センター主催の地域での催しにて、施設のことや認知症の事について話す機会を頂いている。また、民生委員向けの講習会を受け入れていることにより、地域の方に、認知症やグループホームの事を広めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では施設の現状、取り組みを伝え、参加して頂く、関係機関の専門職や区民の方からは、施設に対する要望、質問を頂き、可能な限りフィードバックするようにしている。	区長、家族には案内をだすも、参加が得られてはならず、現在市役所長寿保健課、地域包括支援センター、民生委員の協力によって隔月開催が叶っています。事業所でも6回の内1回は試食(検査)会とするなど、内容に変化をつける工夫をおこなっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長寿福祉課、社会福祉課とは密に連絡を取り、生活保護、緊急的な支援要請に応えられるよう心がけている。又、認知症ケアの専門職としての知識、経験を地域医療介護の普及に還元できるよう、積極的に会議に参加するよう努めている。	本年1月までは生活保護者が1名いたため、介護保険に係る担当課の長寿福祉課だけでなく、社会福祉課とも密な連携を持つよう努めています。また在宅医療介護連携推進会議では管理者が部会代表となる等、行政活動やココの協力関係にも尽力しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束による弊害を理解した上で、可能な限り行わないようにしているが、それ以上にリスクが大きい場合には、家族との相談を重ねた上で、限定的に行う事はある。	本年度の法改正に係る指針作成等は対応が立ち遅れています。現状3名の夜間帯つなぎには3要件を検討し「家族合意」まではできていますが、「状態観察職員協議」について記録がなく、減算対象となっているため、是正に向け改めて身体拘束ゼロ宣言をおこなっています。	マニュアル・指針の作成、委員会設置、委員会会議運営4回、研修会2回、新人研修等、法改正で求められている全てにおいて是正することを切に期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での虐待を防止するため、職員同士で声を掛け合い、協力してケアに取り組むようになっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業や後見人制度に関して、必要に応じて市の担当者、包括、社協と連携して取り組み、利用者に不利益が生じないように対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本契約以前に、施設独自の仮入居期間を設け、利用者、家族が納得した上で契約を行っている。変更等が生じた際も面談の機会を設けるよう努め、説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情窓口を設け、日頃から利用者、家族と意見交換のしやすい関係作りを努めている。又、頂いた意見は迅速にサービスに活かせるよう努めている。	面会頻度は家族によってまちまちですが、請求支払いには事業所に足を運んでもらう形をとっている為、月1回は家族と直接会話がもてています。また居室担当制は敷いていないものの、日常の様子は職員全員が説明できる体制を整え、家族に安心してもらっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より、職員と意図的にコミュニケーションをとるように図り、日課のミーティング以外にも、年二回以上の懇親会を設けて、意見を出せる環境づくりを行っている。その積み重ねにより、最近では可能な範囲で職員主導で進むことが増えている。	朝のミーティング、年2回の親睦会を通して代表者(管理者)は全員の職員と会話があり、職員からのリクエストに応えることは上位者の責務として、速やかに取組んでいます。つい最近では年末の大掃除を職員意見主導で実施しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適宜、個別の面談を行う事で、勤務上の悩みや、要望を伝えられる機会を設けている。勤務形態に関しても、管理者以外にも相談できるよう担当者を配置している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々のケアの中で、困っていること、不安なこと、分からないことを共有できるよう、連絡ノートを活用している。また、ノートに書きづらい内容に関しては、個別に相談に応じている。外部研修への参加も促進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の専門職会議を主として、他事業所との関係構築に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族、これまで関わってきた専門職と密に連絡を取り、要望や課題に対して取り組むようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学段階から、十分に面談の回数、時間をとり、相談しやすい環境づくりをし、家族が納得した段階でサービスの開始をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の中で要望、課題に優先順位をつけ、個々の利用者に適切なサービスを提供できるよう努めている。また、相談内容により、他サービスの方がより適していると判断すれば、相談者の意向を踏まえた上で、そちらを薦めることもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、共に行う作業を通じて信頼関係を構築し、時に友人、時に家族といった関係づくりを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員が適切なコミュニケーションをとることで、利用者に関する情報を共有し、ケアを協同して行っているという意識を持ってもらえるよう図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者本人の要望を元に、家族の協力を得ることで、友人、親族との関係を継続できるよう支援している。	108歳となる利用者は親戚も集まる際に自宅に戻って楽しく過ごしたり、田植えの時期になるとどうしても気になるとなれば田んぼの水の状態を家族と確認に出かける利用者もいます。炭酸、ラーメン、お菓子等、本人の好みのものに合わせて提供できるよう努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団生活の中では、うまくいかない利用者間もあるが、職員が間に入ることやフォローすることで、各利用者の生活を支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去の準備や、退去後の生活においても必要なサービス利用に支障がないように相談・支援に努めている。また、その本人、家族が同じ地域の知り合いであることに変わりはないため、守秘義務に留意した上で良好な関係性を維持している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	様々な場面で利用者の希望や意向を尊重し、また汲み取ることに努め、可能な限り暮らしに取り入れている。	思いや意向の把握については、普段の生活の中でできるだけ隣に座り、話をしながら思いを聞き取るスタイルが定着しています。特に新規入居者には時間をつくっており、家族から聞いていたこととは違ったり、当初のアセスメントシートが変更されることもあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者又は家族、関係専門職から、これまでの暮らし方や個人情報を収集し、利用者本人に合う生活を維持するために支援をする。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の心身状態、日常の暮らし方を細部まで観察し、支援に役立てるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーを中心に全スタッフが情報収集に努め、利用者、家族との意見交換し、現況に合う介護計画作成に努めている。	介護支援専門員が中心となり、朝のミーティングが隙間の時間を利用して職員に聞き取りを重ね現状把握を以て、家族の意見も加味しつつ、介護計画書を作成しています。また、聞き取り間違いがないよう、利用者番号を記した書面も活躍しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の関わりにおいて、気づき・実践・結果に関して、連絡ノートを活用することで情報を共有し、介護計画作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	発生したニーズに即応することを大切にし、職員から利用者、家族に選択肢を提案することや、協力関係機関からもアドバイスをすることで、介護保険の枠に固執することなく、当事業所において可能な限りの支援を行うよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の暮らしがよりよくなるよう、活用できる地域資源を模索し暮らしが豊かになるよう支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医と密に連絡をとり、情報を適切に伝達することや、主治医と利用者、家族の間に入り、スムーズな意思の共有が成されるよう支援している。	何かあれば往診もしてくださる協力医に13名中12名が変更していて、従来のかかりつけ医を続ける利用者は1名のみです。通常2ヶ月に1度、事業所で協力医への通院を付き添っていて、他科は家族にお願いするも、「できない」となれば職員が代行しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が介護職員と同じく現場に入っているため、情報の共有や医療的な指示、アドバイスがスムーズに伝わるため、日常の細かな変化から適切な受診へ繋げられるような支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入退院をする際、日常生活の情報を交換したり、医療関係者に適切な情報を伝達できるよう担当主治医も含めた協働関係を築く支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より利用者や家族に重度化・終末期になられた際のことを想定して頂き、当事業所において可能な対応を説明し、主治医と常に情報を共有することで、希望された支援ができるよう取り組んでいる。また、看取りの同意書を用いて、家族の意向を家族自身が客観的に整理できるようにしている。	状態変化に応じて医師の指導を仰ぎ、また家族とも話し合いつつ看取りに取組み、本年度は2名をお見送りしています。事業所の2階に住む看護師とともに、協力医も24時間オンコールで対応くださる安心の医療体制にあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の初期対応として、応急処置や通報手順等を確認し、実践に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の防災訓練を行い、通報機器の使用法を確認している。また、地震、水害を想定した避難計画を基に、避難場所や避難経路の確認をしている。	年2回の法定訓練は職員全員が参加できるよう配し、管理者も地元消防団に所属のうえ、地域防災に日頃から携わっています。自家発電も備え、また事業所内に備蓄3日分、車で5分ほどの場所にも保管場所を確保しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格や生活歴等を考慮し、日常生活の中で一人ひとりに敬意をもって、又柔軟に対応している。	利用者を人生の先輩として、またお客様として敬うことは当然としても、「此処は利用者の家、暮らしがある」ことに重きをおき、呼称は家庭で呼ばれていたまま若しくは本人が呼んで欲しい名前としています。縫物や洗い物などできることはお願いし、有用感を高めることにも配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者や家族の希望を知ろうとし、様々な場面において自己決定ができるような支援をしている。又困難な場合には選択肢を提示することや思いを汲み取るようコミュニケーションを重ねている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の暮らしが本人のペースで過ごせるよう、その日その時の心身状態を把握し、関わりの中から利用者の希望を見つけ出すようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みを把握し、清潔感や衛生面を考慮した上で、身だしなみやおしゃれを楽しむことができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好や食事の摂り方を把握し、楽しみとなる食事になる支援をし、準備や片付けは利用者と職員が協働としている。	利用者に「何食べたい？」と相談しつつ、近くに在る大型スーパーマーケットに買い出しに出かけ、リクエストやその日の天候などを考慮してアレンジして作る、ごく普通の家庭での食事が提供されています。ただ、利用者が寿司好きのため、ちらし寿司の提供頻度は高まっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	自家米や地元野菜を中心に、利用者個々の状態に応じた、栄養・水分摂取量の確保を支援している。特に医師より指示がある方に関しては、摂取量を記録として残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥防止・清潔保持のため、毎食後に職員指導の下、利用者の口腔状態に応じ歯ブラシ以外の洗浄方法や、義歯の週2回の洗浄、夜間預かり等の支援をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立に向け、利用者個々の排泄を記録し、排泄パターンを考察しトイレ誘導を行い、夜間の排泄に対しては、睡眠の妨げにならない支援をしている。また、パッドも様々なサイズを用い、個人個人に合ったものを使用している。	排便チェック表でリズムを把握して、トイレ誘導をおこなっていますが、夜間は安眠を優先し、声掛けのタイミングを計っています。便秘気味の利用者には薬を多用しないよう工夫を凝らし、水分を増やす又は散歩等で状態改善を進めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	規則正しい生活・食事を軸に、体操や散歩を取り入れ、適切な排便を促している。排便の記録を取ることで、必要に応じて医師と相談の上、薬を用いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間帯に利用者の状態や希望に応じ、浴槽とミスト浴を使い分け、楽しみごとと清潔保持のために支援をしている。	週2回を目安に入浴をおこなっていますが、利用者本人に無理があればミスト浴に変更しています。どちらかという利用者より職員の体力や体調に困って入浴実施に滞りがでてしまわないよう、管理者が代わって入浴介助できる態勢を整えています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の心身状態に応じ、睡眠や休息ができるよう支援している。日中でも、高齢で体力的に厳しい方や、体調の悪い方は、その時の判断で休む時間を長くとってもらっている。居間にある畳スペースにて、簡単に昼寝ができる工夫もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示通り、正しく服薬が完了し症状の経過観察に留意する支援をしている。又、副作用と思われる症状が生じた際には早急に医師へ連絡し対応を検討している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	暮らしの中で、一人ひとりが自分の役割を持ち、共同生活を通して、仲間との関わりを楽しむ支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常的に体力作りや気分転換を兼ね、散歩を取り入れ、利用者や家族の要望があれば外出支援をしている。家族への声掛けも行い、当事業所では対応できない部分に関して協力を依頼している。	散歩はほぼ毎日おこなうものの、少し遠出といった外出行事がなく、外食や買い物は家族が付き添っています。またお小遣い管理をおこなっていないため、本人とちょっと買い物へということも実現できかねていて、利用者はお出かけという刺激がない毎日を過ごしています。	河津桜のビデオを皆で鑑賞したり、定額で買い物のお小遣いを家族から預かる等、何らかの工夫が今後あることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭(貴重品)所持は、利用者や家族の希望に応じ、紛失、誤飲等のリスクを説明した上で了承して頂いた場合に、管理していただけるよう支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望により、電話や手紙を自由に交換できるよう見守り、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは毎朝利用者と職員で掃除を欠かさず行い、清潔で心地よく暮らせる工夫をしている。利用者の心身状態を配慮し、音・光等を自然に近いものにしていく。また、インフルエンザ等の対策として、冬でも日に数回は換気をし外の空気を取り入れている。	大型の釜のような器に水を張った手作り加湿器は常に水蒸気が出ていて温度・湿度は快適で、利用者や職員の声に応じてなんでも作れる事業所です。散歩以外の外出が実現していませんが、イチゴやイチジク等旬なものを室内で食して季節を舌で味わうことは叶っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間を広く取り、畳コーナーや散歩廊下を設け、時には賑やかに時には人の気配を間近に感じながら安心して過ごせる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るさや室温に配慮し、家族との相談の上、安全を第一とした上で、利用者の持ち込んだ品(家具・写真)をできるだけ使い、居室にて心地良く過ごせる工夫をしている。	以前は仏壇を持ち込んだ居室もありましたが、現在は位牌のみで、大半の居室にはあまりモノがありません。壁に様々貼りだしている部屋もありますが、これはリビングにあったものを移したとのことで、本人の作品ではありませんでした。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各利用者の必要に応じて、居室入口に暖簾を下げたり、共用部分に看板を用いている。また単独での歩行が不安定な方でも手すりを用いて歩行が可能となるよう配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270300599		
法人名	有限会社 源氏		
事業所名	グループホーム 源氏庵		
所在地	静岡県伊豆の国市四日町346-2		
自己評価作成日	平成31年1月24日	評価結果市町村受理日	平成31年3月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2018_022_kami=true&JigyosyoCd=2270300599-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成31年2月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自然に自分らしく共に生きよう源氏庵」という理念の下に、この地域で暮らされてきた利用者が送られてきた生活を極力維持できるようサポートしていくことに力を入れている。
 スタッフに対しても働きやすい環境を提供するため、役員が率先してコミュニケーションをとるようにし、結果として勤続10年近いスタッフが長く、開所当時からスタッフも所属している。
 スタッフが安定していることで、利用者本人、家族に対するの安心感が繋がると考えている。
 また、施設での看取りを積極的に行っており、可能な限り本人、家族の希望に沿えるように支援をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家族の大黒柱である代表者が、護られるべき利用者が快適な生活を送るために、日曜大工に勤しんでいることが見てとれる事業所です。敷地入口には自転車の車輪で作った風力発電のオブジェが目を楽しませ、風が強い日には象徴のように明かりが点灯します。玄関脇にもランドセルやサッカーボールが何気なく置かれていてごく普通の家庭の風情が感じられ、全体に穏やかな空気が流れています。将棋盤は柵となり、ねじれた木材は存在感満載の柱に、ストープには欄間かのようなお洒落なパテーションで囲み、危険防止に取り付けたというよりインテリアの域に達しています。その為、利用者の表情にも大事にされている安堵が滲んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、パンフレットに記載し、施設内にもフロアーの目に付く場所に掲げている。又、その理念を実践すべく日頃より介護現場において職員に指導をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の文化祭への出展や、ボランティアの受け入れ等、地域との関わりを積極的に行っている。また、直接的な関わりではないが、日課である散歩により、どういった方が利用しているのか、常に近隣の目に映るよう心がけている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センター主催の地域での催しにて、施設のことや認知症の事について話す機会を頂いている。また、民生委員向けの講習会を受け入れていることにより、地域の方に、認知症やグループホームの事を広めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では施設の現状、取り組みを伝え、参加して頂く、関係機関の専門職や区民の方からは、施設に対する要望、質問を頂き、可能な限りフィードバックするようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長寿福祉課、社会福祉課とは密に連絡を取り、生活保護、緊急的な支援要請に応えられるよう心がけている。又、認知症ケアの専門職としての知識、経験を地域医療介護の普及に還元できるよう、積極的に会議に参加するよう努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束による弊害を理解した上で、可能な限り行わないようにしているが、それ以上にリスクが大きい場合には、家族との相談を重ねた上で、限定的に行う事はある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での虐待を防止するため、職員同士で声を掛け合い、協力してケアに取り組むようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業や後見人制度に関して、必要に応じて市の担当者、包括、社協と連携して取り組み、利用者に不利益が生じないように対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本契約以前に、施設独自の仮入居期間を設け、利用者、家族が納得した上で契約を行っている。変更等が生じた際も面談の機会を設けるよう努め、説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情窓口を設け、日頃から利用者、家族と意見交換のしやすい関係作りに努めている。又、頂いた意見は迅速にサービスに活かせるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より、職員と意図的にコミュニケーションをとるように図り、日課のミーティング以外にも、年二回以上の懇親会を設けて、意見を出せる環境づくりを行っている。その積み重ねにより、最近では可能な範囲で職員主導で進むことが増えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適宜、個別の面談を行う事で、勤務上の悩みや、要望を伝えられる機会を設けている。勤務形態に関しても、管理者以外にも相談できるよう担当者を配置している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々のケアの中で、困っていること、不安なこと、分からないことを共有できるよう、連絡ノートを活用している。また、ノートに書きづらい内容に関しては、個別に相談に応じている。外部研修への参加も促進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の専門職会議を主として、他事業所との関係構築に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族、これまで関わってきた専門職と密に連絡を取り、要望や課題に対して取り組むようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学段階から、十分に面談の回数、時間をとり、相談しやすい環境づくりをし、家族が納得した段階でサービスの開始をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の中で要望、課題に優先順位をつけ、個々の利用者に適切なサービスを提供できるよう努めている。また、相談内容により、他サービスの方がより適していると判断すれば、相談者の意向を踏まえた上で、そちらを薦めることもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、共に行う作業を通じて信頼関係を構築し、時に友人、時に家族といった関係づくりを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員が適切なコミュニケーションをとることで、利用者に関する情報を共有し、ケアを協同して行っているという意識を持ってもらえるよう図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者本人の要望を元に、家族の協力を得ることで、友人、親族との関係を継続できるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団生活の中では、うまくいかない利用者間もあるが、職員が間に入ることやフォローすることで、各利用者の生活を支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去の準備や、退去後の生活においても必要なサービス利用に支障がないように相談・支援に努めている。また、その本人、家族が同じ地域の知り合いであることに変わりはないため、守秘義務に留意した上で良好な関係性を維持している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	様々な場面で利用者の希望や意向を尊重し、また汲み取ることに努め、可能な限り暮らしに取り入れている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者又は家族、関係専門職から、これまでの暮らし方や個人情報を収集し、利用者本人に合う生活を維持するために支援をする。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の心身状態、日常の暮らし方を細部まで観察し、支援に役立てるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーを中心に全スタッフが情報収集に努め、利用者、家族との意見交換し、現況に合う介護計画作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の関わりにおいて、気づき・実践・結果に関して、連絡ノートを活用することで情報を共有し、介護計画作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	発生したニーズに即応することを大切にし、職員から利用者、家族に選択肢を提案することや、協力関係機関からもアドバイスを得ることで、介護保険の枠に固執することなく、当事業所において可能な限りの支援を行うよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の暮らしがよりよくなるよう、活用できる地域資源を模索し暮らしが豊かになるよう支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医と密に連絡をとり、情報を適切に伝達することや、主治医と利用者、家族の間に入り、スムーズな意思の共有が成されるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が介護職員と同じく現場に入っているため、情報の共有や医療的な指示、アドバイスがスムーズに伝わるため、日常の細かな変化から適切な受診へ繋がられるような支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入退院をする際、日常生活の情報を交換したり、医療関係者に適切な情報を伝達できるよう担当主治医も含めた協働関係を築く支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より利用者や家族に重度化・終末期になられた際のことを想定して頂き、当事業所において可能な対応を説明し、主治医と常に情報を共有することで、希望された支援ができるよう取り組んでいる。また、看取りの同意書を用いて、家族の意向を家族自身が客観的に整理できるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の初期対応として、応急処置や通報手順等を確認し、実践に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の防災訓練を行い、通報機器の使用法を確認している。また、地震、水害を想定した避難計画を基に、避難場所や避難経路の確認をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格や生活歴等を考慮し、日常生活の中で一人ひとりに敬意をもって、又柔軟に対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者や家族の希望を知ろうとし、様々な場面において自己決定ができるような支援をしている。又困難な場合には選択肢を提示することや思いを汲み取るようコミュニケーションを重ねている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の暮らしが本人のペースで過ごせるよう、その日その時の心身状態を把握し、関わりの中から利用者の希望を見つけ出すようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みを把握し、清潔感や衛生面を考慮した上で、身だしなみやおしゃれを楽しむことができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好や食事の摂り方を把握し、楽しみとなる食事になる支援をし、準備や片付けは利用者と職員が協働としている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	自家米や地元野菜を中心に、利用者個々の状態に応じた、栄養・水分摂取量の確保を支援している。特に医師より指示がある方に関しては、摂取量を記録として残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥防止・清潔保持のため、毎食後に職員指導の下、利用者の口腔状態に応じ歯ブラシ以外の洗浄方法や、義歯の週2回の洗浄、夜間預かり等の支援をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立に向け、利用者個々の排泄を記録し、排泄パターンを考察しトイレ誘導を行い、夜間の排泄に対しては、睡眠の妨げにならない支援をしている。また、パッドも様々なサイズを用い、個人個人に合ったものを使用している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	規則正しい生活・食事を軸に、体操や散歩を取り入れ、適切な排便を促している。排便の記録を取ることで、必要に応じて医師と相談の上、薬を用いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間帯に利用者の状態や希望に応じ、浴槽とミスト浴を使い分け、楽しみごとと清潔保持のために支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の心身状態に応じ、睡眠や休息ができるよう支援している。日中でも、高齢で体力的に厳しい方や、体調の悪い方は、その時の判断で休む時間を長くとってもらっている。居間にある畳スペースにて、簡単に昼寝ができる工夫もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示通り、正しく服薬が完了し症状の経過観察に留意する支援をしている。又、副作用と思われる症状が生じた際には早急に医師へ連絡し対応を検討している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	暮らしの中で、一人ひとりが自分の役割を持ち、共同生活を通して、仲間との関わりを楽しむ支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常的に体力作りや気分転換を兼ね、散歩を取り入れ、利用者や家族の要望があれば外出支援をしている。家族への声掛けも行い、当事業所では対応できない部分に関して協力を依頼している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭(貴重品)所持は、利用者や家族の希望に応じ、紛失、誤飲等のリスクを説明した上で了承して頂いた場合に、管理していけるよう支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望により、電話や手紙を自由に交換できるよう見守り、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは毎朝利用者と職員で掃除を欠かさず行い、清潔で心地よく暮らせる工夫をしている。利用者の心身状態を配慮し、音・光等を自然に近いものにしていく。また、インフルエンザ等の対策として、冬でも日に数回は換気をし外の空気を取り入れている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間を広く取り、畳コーナーや散歩廊下を設け、時には賑やかに時には人の気配を間近に感じながら安心して過ごせる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るさや室温に配慮し、家族との相談の上、安全を第一とした上で、利用者の持ち込んだ品(家具・写真)をできるだけ使い、居室にて心地良く過ごせる工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各利用者の必要に応じて、居室入口に暖簾を下げたり、共用部分に看板を用いている。また単独での歩行が不安定な方でも手すりを活用して歩行が可能となるよう配慮している。		